

医学教育分野別評価
琉球大学医学部医学科
年次報告書
2020 年度

評価受審年度 2017 (平成29) 年

令和2年12月

琉球大学医学部



評価受審年度 2017（平成29）年

受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.11

本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32

はじめに

本学医学部医学科は、2017年に日本医学教育評価機構による医学教育分野別評価を受審し、2018年11月1日より7年間の認定期間が開始した。医学教育分野別評価基準日本版 Ver.2.32を踏まえ、2020年度の年次報告書を提出する。なお、本年次報告書に記載した教育活動は、日本医学教育評価機構の作成要項に則り、2019年4月1日～2020年3月31日を対象としている。

**医学教育分野別評価 琉球大学医学部医学科 年次報告書
令和2年度**

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.2 大学の自立性および学部の自由度
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 導入が計画されている「沖縄特色科目」の確実な履行が期待される。	
現在の状況	
・ 「沖縄特色科目」を継続して実施している。	
今後の計画	
・ 内容のさらなる充実について、今後議論する予定である。 ・ その際、行動科学の学修と関連させる予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・ 資料1.2.1：シラバス（沖縄特色科目）	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.3 学修成果
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・ 学修成果を教員、学生に十分に周知すべきである。	
現在の状況	
・ 学生に関与するすべての委員会で教員への周知をはかっている。 ・ 講義、実習を通じて、周知を図っている。	
今後の計画	
・ 新任教員研修での周知を企画している。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.3 学修成果
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 卒前と卒後の学修成果の関連をより明確にすることが望まれる。	
現在の状況	
卒後の大学院教育との関連では、平成 30 年度に、全学的に URGCC-Advanced が導入された。そして、専門性、創造性、倫理性の 3 項目が学修成果として定められた。医学科においても、この URGCC-Advanced の導入により、卒前の学修成果 (URGCC 学習教育目標および卒業時コンピテンス) と卒後の大学院教育における学修成果の関連が明確になった。	
今後の計画	
卒後の臨床研修に関する学修成果との関連についてはキャリア支援センターとの緊密な連携を計画している。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.4 使命と成果策定への参画
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 卒業時コンピテンスの策定には、学生、職員など、教育に関わる主要な構成者が参画すべきである。	
現在の状況	
・ 医学教育評価委員会、医学教育分野別評価対策委員会に学生が参画する規程を作成し、既に参加している。	
今後の計画	
・ 使命・学修成果の改訂をどのように進めていくか (方針決定)、どのタイミングで行うか (発議の方法) を話し合っている。	
現在の状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1.4.1：令和元年度第1回カリキュラム作成専門部会議事要旨 ・ 資料1.4.2：R1第2回医学教育分野別評価委員会 議事要旨 ・ 資料1.4.3：R1第1回医学教育評価委員会 議事要旨 	

今後改善が見込まれる項目

1. 使命	1.4 使命と成果策定への参画
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後使命を改定する際には、他の医療職、患者代表者など、広い範囲の教育関係者の意見を聴取することが望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍にあり、学外の有識者などとの会議を開く機会が失われている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 人選を含め検討する予定である。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.1 プログラムの構成
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 卒業時コンピテンス、コンピテンシーを各科目の教育に十分に反映させるべきである。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目で達成される学修成果を表にまとめてマトリックス表を作成した。 ・ すべてのコンピテンスが組み込まれていることは確認した。 ・ コンピテンシーのレベルでの達成を現在検討している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ マイルストーンなどを作成し、学年ごとの達成目標を策定する予定である。 ・ 基礎医学、臨床実習において身に着けるべき態度・技能を洗い出し、どの学年、どの実習で学ぶかを検討する予定である。 	
現在の状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料2.1.1：科目・コンピテンシー対応表 ・ 資料2.1.2 令和元年度第1回医学教育分野別評価対策委員会 議事要旨 	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.2 科学的方法
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
・ 臨床で活用するための体系的な EBM 教育の強化を図るべきである。	
現在の状況	
・ EBMについては、臨床科目、基礎科目で個別に実施されている。	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学・医療倫理学と医療法学
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 行動科学の体系的なカリキュラムを整備すべきである。	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 講座横断的で、学年を跨ぐ行動科学の体系的なカリキュラムを構成している。 ・ 行動科学を能動的に学修するためのプログラムとして“飲酒と健康“などを取り入れる方向で調整している。 	
今後の計画	
・ 座学において基本的知識を習得し、TBL などアクティブラーニングを活用して行動科学の学修成果達成を企画している。	
現在の状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料2.4.1：シラバス（行動科学） ・ 資料2.1.2 令和元年度第1回医学教育分野別評価対策委員会 議事要旨 	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.4 行動科学と社会医学・医療倫理学と医療法学
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを定義し、行動科学、社会医学、医療倫理学、医療法学のカリキュラムを検討することが望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学教育分野別評価対策委員会で検討している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、広く意見を聴取し、将来必要となる事項を検討する予定である。 	
現在の状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料2.1.2 令和元年度第1回医学教育分野別評価対策委員会 議事要旨 	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.5 臨床医学と技能
基本的水準 判定：適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ すべての学生が、健康増進と予防医学を実際に体験できるようにすべきである。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 現状、“体験”には至っていない。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 公衆衛生学のフィールドワークの中で体験できるプログラムを検討する予定である。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.6 プログラムの構造、構成と教育期間
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 垂直的統合科目を開講する上での問題点を議論して、垂直的統合科目を拡充することが望まれる。	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての基礎科目において臨床症例をベースにした TBL を実施している。TBL は臨床系教員と基礎系教員が共同で実施している。 ・ 基礎科目である神経科学・発生学において、臨床系の教員が分担担当している。 ・ 総合学習としての TBL の中で基礎系教員が病態、生理、解剖について協力している。 	
今後の計画	
・ 教務委員会・医学教育企画室の方で、実施状況を調査する予定である。	
現在の状況を示す根拠資料	
・ 資料2.6.1：シラバス（TBL）	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会の構成委員として、学生の代表を含めるべきである。	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学教育評価委員会、分野別検討委員会へは参加しており、教育カリキュラムの評価、改訂方針決定のメンバーではある。 ・ 現在、最終的なカリキュラム決定の場である教務委員会への学生の参加の形態を検討している。 	
今後の計画	
・ 学生生活委員会への参画を含めて検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

2. 教育プログラム	2.7 プログラム管理
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育カリキュラムの立案と実施に責任と権限を持つ委員会に、教員と学生以外の広い範囲の教育の関係者の代表を含むことが望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育の関係者の代表を入れることは決定しているが、その人選を急いでいる。 	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識、技能、態度の領域に合致した評価を学修段階に応じて系統的に実施すべきである。 ・ 臨床実習現場においてさまざまな評価を確実に実施すべきである。 ・ 学生の成長に関する記録を蓄積して、形成的評価に活用すべきである。 ・ 疑義申し立てについて、医学部として組織的な対応の仕組みを構築すべきである。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能に関しては、卒業までに達成すべき技術項目の洗い出しをほぼ終了した。 ・ 卒業までに、すべてを達成しているかをチェックする方法を検討中である。 ・ 態度の評価は基礎・臨床・社会科学すべての科目で行うことを決定している。 態度評価の活用法は、慎重に議論を進めている。 臨床実習においては態度を1つの指標にしており、特に注意を要する学生に関しては、診療科毎、指導教員、医学教育企画室からフィードバックを掛けている。 ・ 学生の成長の記録は、学生カルテという形で個人別に行う方向で調整している。 科目ごと、学年ごとにフィードバックをして成長を促す予定である。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 臨床実習における様々な評価法はこれから検討する。 	
現在の状況を示す根拠資料	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 名嘉地先生の臨床実習履修簿 ・ 資料3.1.2：臨床実習 指導医による評価表 	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.1 評価方法
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の信頼性と妥当性を検証することが望まれる。 ・ 基礎医学での各科目の評価方法、合格基準を統括的に検証、評価し、改善する仕組みを構築することが望まれる。 ・ 外部評価者を活用することが望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ シラバスの相互検証を定期的に行っており、その中で評価法の妥当性は検討している。 ・ 試験問題、正解の公表を進める。統合科目の教員間での情報共有を進めている。 ・ 学生成績（分布、平均、最低、最高など）の教員間での情報共有を進めている。 ・ それらの妥当性に関する分析は始まっていない。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 評価の信頼性、妥当性はこれから検討する。 ・ 学年ごとの総括評価（基礎医学）の方法はこれから検討する。 ・ 外部評価委員の導入は今後検討する。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピテンシーの各項目に関連づけて科目での到達レベルを設定し、目的とする。学修成果の達成を保証する評価について検討し実践すべきである。 ・ 評価のフィードバックを確実に言い、学生の学修を促進すべきである。 ・ 低学年から臨床実習に至る過程において、学生の成長に関する記録を蓄積して、形成的評価に活用すべきである。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ マトリックス表は作成終了し、学年毎に達成目標を設定する準備をしている。 ・ 臨床実習においては、診療科毎にフィードバックを掛けている。 ・ 臨床実習の前、前半の終了後に総合的なフィードバックを掛けている。 ・ 学生カルテの準備を進めている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎科目においては形成的評価を行い、フィードバックを行う科目を増やす。 ・ 学生カルテにおいて、現在の到達度、また、各科からのフィードバックを Web 上で確認できるシステムを構築する。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

3. 学生の評価	3.2 評価と学習との関連
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 形成的評価を繰り返し行い、具体的、建設的、そして公正なフィードバックを行うことが望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年で、指導教員に担当する学生に関する面談をお願いしている。 ・ 基礎科目の一部に置いては、ミニテストなどを行い、理解が進んでいない学生には面談を行っている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての科目でフィードバックを掛けることができるように進める 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.3 学生のカウンセリングと支援
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムとして、中高学年でのキャリアガイダンス教育の導入が望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ M5 の倫理総合討論の中で、キャリアパスについて考える機会を設けている。 ・ カリキュラム外で、ジェンダー推進室などが行う FD への学生の参加を促している。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍が明けた後には、対面でのキャリア教育を進める予定である。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

4. 学生	4.4 学生の参加
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、教育プログラムの策定、管理および学生に関する諸事項に関わる各種委員会に学生の参画を推進すべきである。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学教育評価委員会、医学教育分野別評価対策委員会に学生が参画する規程を作成し、参加させている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 今後、すべての委員会に学生が参加できるよう、制度設計を検討する予定である。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

5. 教員	5.2 教員の活動と能力開発
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 教員がカリキュラムの全体像を十分に理解するための適切なシステムを確立すべきである。 ・ カリキュラムの実施を確実に行えるよう、教員それぞれのエフォート率を組織的に管理すべきである。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 新任研修会における説明はまだ行われていない。 	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.1 施設・設備
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ 学習環境を定期的・組織的に見直す体制を構築することが望まれる。	
現在の状況	
・ 学生生活委員会を中心に学生・教員・事務職員からのデータを継続して集めており、臨機応変に必要な見直しを行っている。しかしながら、組織的なシステムの構築は行われていない。	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 情報の流れを検討する予定である。 ・ 学修環境を定期的に見直す組織的な体制を考えているところである。 ・ アンケートなどを集約するシステムの構築を、医学教育評価委員会に置いて検討している。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

6. 教育資源	6.5 教育専門家
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
・ 学内外の教育専門家を活用し、すべての教職員の教育能力向上をさらに図ることが望まれる。	
現在の状況	
・ コロナ禍にあり、学外の専門家による講演会などを開けない状況である。	
今後の計画	
教務委員会主導でFDの開催を検討する。	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医学教育評価委員会は、カリキュラムとその主な構成要素、学生の進歩、課題の特定と対応についての評価を早急に遂行すべきである。 ・ 医学科の教学 IR 機能を実働させ、評価システムの充実化を図るべきである。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 依然としてモニタすべき内容を検討中である。 ・ コロナ禍にあり、座学の多くが遠隔授業で行われている。このカリキュラム実施方法の変更が、アクティブラーニングとして効果を表すか否かを追跡調査することが始まっている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・ カリキュラムおよびその実施方法の変更に伴う成績、達成度（学修成果）の変化を解析する方法を検討する予定である。 ・ どのような項目がプログラム改善のために必要な評価項目となるかを委員会にて急ぎ検討する予定である。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.1 教育プログラムのモニタと評価
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 長期間で獲得される学修成果、社会的責任について、教育プログラムを包括的に評価することが望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 包括的に評価する仕組みについて、医学教育評価委員会、医学教育分野別評価対策委員会で検討に入っている。 	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 系統的に教育プログラム評価のための学生・教員からフィードバックを収集し、分析・対応すべきである。	
現在の状況	
7. 1に同じ	
今後の計画	
(空欄)	
現在の状況を示す根拠資料	
(空欄)	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.2 教員と学生からのフィードバック
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ 教育プログラム評価のための教員や学生からのフィードバックをプログラム開発に活用する仕組みを構築することが望まれる。	
現在の状況	
7. 1に同じ	
今後の計画	
(空欄)	
現在の状況を示す根拠資料	
(空欄)	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
基本的水準 判定：部分的適合	
改善のための助言	
・ 使命、学修成果、カリキュラム、および教育資源の観点から、学生と卒業生の実績に関するデータを収集し、分析すべきである。	
現在の状況	
7. 1に同じ	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.3 学生と卒業生の実績
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
・ 学生の実績に関するデータを収集し、その結果を学生の選抜、カリキュラム立案、学生カウンセリングについて、入試委員会、教育委員会等へフィードバックを確実に提供することが期待される。	
現在の状況	
7. 1に同じ	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

7. 教育プログラム評価	7.4 教育の関係者の関与
質的向上のための水準 判定：部分的適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育評価委員会が具体的に活動を行い、教育課程および教育プログラムの評価結果を公開することが望まれる。 ・カリキュラムに対して他の関連する教育に関わる主要な構成者からフィードバックを求めることが望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍であり、学外の教育に関わる主要な構成者からのフィードバックを受けにくい状況にある。 ・学外実習病院の指導医からのフィードバックは継続して受けている。 ・卒業時OSCEなどで学外の評価者を入れ、評価者からフィードバックを受けている。 	
今後の計画	
<ul style="list-style-type: none"> ・課題を特定し、その課題の解決に必要な人選を行った上で、フィードバックを受けたいと考えている。 	
現在の状況を示す根拠資料	

今後改善が見込まれる項目

8. 統轄及び管理運営	8.1 統轄
質的向上のための水準 判定：適合	
改善のための示唆	
<ul style="list-style-type: none"> ・統轄業務とその決定事項について、プロセスも含めた情報公開の一層の推進が望まれる。 	
現在の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・医学教育改善にかかわる意思決定プロセスは・教授会、臨床実習連絡会議、基礎教授懇談会において、報告され、周知されている。 	
今後の計画	
現在の状況を示す根拠資料	